

の施設の改修など、実現可能性を前提に決定したい。当然、周辺への経済波及効果も考慮するが、祭り文化は全市的なものであるので地域格差を引き起こすことは極力避けたいと考えている。

■それまでの間、姫路港の新しい旅客船ターミナル（現在改修中）で「播州屋台会館」を仮設置できるか検討する。

■■■建設費に工夫はあるか？

■祭り・屋台という単一テーマでの整備には国の補助金採択が望めず、本市の財源だけで対応せざるを得ない。そのため、文化庁の補助を見込める内容での整備を目指している。また、観光という観点では、単なる屋台の展示、工芸品としての静的展示のみよりもVRやAR（仮想現実や拡張現実）を駆使した体験型施設として整備するべきである。そのためにも、デジタルコンテンツの作成や展示物の収集に必要な費用を集めるため、クラウドファンディングやふるさと納税等の手法を活用し、祭り文化を大切に思う市民の機運を盛り上げていく。

■■■運営に関し、何か思うことは？

■展示物の適切な保存、彫刻や刺繍の実演公開、特別展の企画には、寄贈元や屋保連の協力が不可欠である。さらには、体験型施設という観点からも、本物の屋台の練り出しや獅子舞の演舞にも各地区の持ち回りで力を貸していただきたい。臨場感のあるVRやARを導入するためにはリアルな祭りのデジタルアーカイブ化等にも協力をお願いしたい。また、ミュージアム来館者には本物の祭りにも足を運んでもらいたいため、各地区では観光客が安全に祭りを見物できる仕組みづくりにもご提言、ご協力をお願いしたい。

■■■選挙公約に掲げるか？掲げる場合の文言・表現は？

■公約として掲げている。その表現は「お城や祭りなどを体感できる施設整備による伝統文化の継承。

■■■その他、本件に関する意見を。

■20 数年来の市民の悲願を、なんとか形にしたい。所期の目的を達成するためにも、播磨の祭り文化を大切にす市民の皆様の大協力を願う。